＼ いま役立つ情報をおとどけ ／

水田たより　11月号

令和8年11月4日
JA みえきた
桑名地域農業改良普及センター

麦　令和9年産の播種作業

○播種適期

あやひかり・さとのそら ⇒ 11 月中旬～11 月下旬

初期生育の確保が収量、品質の向上に繋がります！**播種が遅れないよう**計画しましょう。
・気象庁の１か月予報（10/29 発表）では、降水量が平年並みか平年より多いと予想されており、降雨によって作業が遅延する恐れがあるため、**適期の早い時期に播種を開始**します。
・面積が大きく、播種に日数を要する場合は**作業のピークを最適期に**収まるよう調整します。
※早すぎる播種は、生育の前半で過繁茂となり、生育の後半で肥切れしてしまうため、倒伏や減収の危険があります。令和９年産の寒候期（12 月～２月、9/18 気象庁発表予報）は**暖冬と予想されるため、早播きし過ぎないよう注意**してください。

○播種量

上記の播種適期に播種する場合、**適正な播種量は８kg/10ａ**です（条播き、条間 25cm の場合）。
播種が遅れてしまった場合は、播種量を増やして生育量を補います。
・**11 月下旬以降は播種が 10 日遅れるごとに１kg/10a の増量が目安です。**
例）11 月下旬→９kg／10ａ、12 月上旬→10kg／10ａ、12 月中旬→11kg／10ａ

○播種深度

播種深度は３cm 程度です。播種を数m行ったら、播種深度を確認し、機械の調整を行いましょう。播種深度が深い場合、発芽不良が生じたり、発芽に時間を要し、生育遅れが生じたりします。

大豆　収穫時の対策で品質向上！

７月初中旬は好天に恵まれたことから、順調に播種作業が進んだものの、７月下旬から８月中旬は高温と干ばつにより生育が停滞しました。９月の長雨で急激に伸長し、一部で徒長、倒伏が見られます。
県産大豆では汚粒や異物混入などの問題が発生しており、実需からは品質向上が求められています。
また、汚粒や異物混入は等級落ちの主要因で収益性に大きな影響を及ぼします。

○収穫前の雑草や青立ち株の除去

アサガオ類やホオズキ類、ケイトウ類など収穫時までほ場に残る雑草や**青立ち株**は汚粒の原因になります。また、アサガオ類の種子や**ジュズダマの実**は異物混入の原因になります。発生のあるほ場では抜き取ってください。


ジュズダマ

○収穫適期の目安

・成熟期の７～14 日後
（成熟期…茎や莢の青みが抜け、莢を振るとカラカラという音がする。）
・子実水分 18%以下
・茎水分 50%以下（茎の青みが抜け黒みを帯び、手でポキッと折れる。）
・時間帯によって水分率は変化します。日の出直後や夕方以降の収穫は控えましょう（作業時間は 10 時から 16 時頃が望ましい）。


周囲　：大豆
中央○：ジュズダマの実
色彩選別機での除去が困難

○刈り取り高さ

土が混入しないよう地際から約 10cm を目安に、ほ場で試し刈りし高さ調節を行ってください。

○収穫時に**汚粒が発生してしまった場合は、分けて管理**してください。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。

▷ 桑名普及　検索